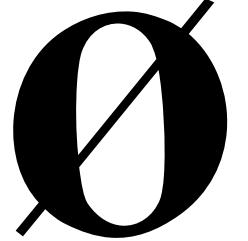


広島・本通からお届けする、こ粹なお話。



[u:]

本通FAN!!:
NHK広島放送局
氣象キャスター
勝丸恭子

こんなに海外の人が
多いストリートも
珍しい気がします

今回の本通人：
森島綾子
グッズカンパニー

本通情報手帖
[ウー]

HON-DORI

The Hon-dori Magazine [u:]

Vol.69 2016 ¥0 TAKE FREE!



平成28年○第69号

「Ø」はデンマーク語で「島」のこと。一つ一つのお店に宝物がある本通を宝島に例えています。



特別付録
広島・本通
イラスト
MAP

人の魅力が商店街の魅力だ！
本通で働くということ。



HON-DORI

ご自由にお取りください。

「Ø」はデンマーク語で「島」のこと。一つ一つのお店に宝物がある本通を宝島に例えています。

粹 かた

いき

22

本通に生きる人々の
粹な心意気が見える、
生き方、人間史。



森島綾子

グッズカンパニー



念願の本通に出店してから、会社にとって
第2のステージが始まったように思います。



1号店となる「雑貨株式会社」の平成9年の
店構え。黄色のテントがシンボルだった。

もりしま・あやこ
●昭和39年10月6日、広島市生まれ。51歳。広島市立商業高校卒業。夫の淳氏と共に昭和62年、株式会社グッズカンパニーを立ち上げ、平成23年から代表取締役に就任。

本

通で営んでいる帽子専門店『SHAPPO』、キヤラクターグッズを扱う『GOODS COMPANY LAND』など4店舗をはじめ、子ども服や飲食店など広島県内を中心には27店舗を経営しています。これまで大切にしてきたのは、「驚きと感動、幸せ、満足感」をキーワードに広島にない商品を紹介したいという思いです。買い付けや店づくりはスタッフに任せています。どんなことをしたいか時間をかけて話し合い、スタッフ一人一人の意見を尊重しています。私は皆を見守るお母さんのような存在ですね。

◆ 東京オリンピックが開催された昭和39年に生まれました。幼少時は真っ黒になつて外で遊ぶとても活発な子でした。広島市立商業高校を卒業後、自動車の総合部品メーカーに就職して経理を担当。20歳のころに通い始めました。

◆ 本通に出店できるチャンスを探していました。銀行に声を掛けたところがきつかけです。主人は迷わず、帽子専門店『SHAPPO』の本通出店を決めました。これま

めた英会話スクールで、8歳年以上の主人と出会いました。当時

30歳、私が23歳の昭和63年に結婚しました。

◆ 結婚した前年の年に、1号店となる雑貨店「雑貨株式会社」を中区袋町に開店しました。当初

から広島で一番のぎわいがあ

る本通に出店したい気持ちがあ

ため、どうしてもできませんで

した。その後は現在「うらぶくろ」と呼ばれている本通の裏通りに、古着店やメンズファッショ

ンを中心とした店などを出し

ていきました。

◆ は人生最後の大仕事になりました。彼はこのころ、がんのために余命宣告を受けていました。

亡くなるまでの数年間は、私が

会社を引き継ぐための準備期間となりました。女性である私が

1号店となる「雑貨株式会社」の

店構え。

◆ 本通に出店できるチャンスを探していました。銀行に声を掛けたところがきつかけです。主人は迷わず、帽子専門店『SHAPPO』の本通出店を決めました。これま

めた英会話スクールで、8歳年以上の主人と出会いました。当時

30歳、私が23歳の昭和63年に結婚しました。

◆ 結婚した前年の年に、1号店となる雑貨店「雑貨株式会社」を中区袋町に開店しました。当初

から広島で一番のぎわいがあ

る本通に出店したい気持ちがあ

ため、どうしてもできませんで

した。その後は現在「うらぶくろ」と呼ばれている本通の裏通りに、古着店やメンズファッショ

ンを中心とした店などを出し

ていきました。

◆ は人生最後の大仕事になりました。彼はこのころ、がんのため

に余命宣告を受けていました。

亡くなるまでの数年間は、私が

会社を引き継ぐための準備期間となりました。女性である私が

1号店となる「雑貨株式会社」の

店構え。

◆ 本通に出店できるチャンスを探していました。銀行に声を掛けたところがきつかけです。主人は迷わず、帽子専門店『SHAPPO』の本通出店を決めました。これま

めた英会話スクールで、8歳年以上の主人と出会いました。当時

30歳、私が23歳の昭和63年に結婚しました。

◆ 結婚した前年の年に、1号店となる雑貨店「雑貨株式会社」を中区袋町に開店しました。当初

から広島で一番のぎわいがあ

る本通に出店したい気持ちがあ

ため、どうでもできませんで

した。その後は現在「うらぶくろ」と呼ばれている本通の裏通りに、古着店やメンズファッショ

ンを中心とした店などを出し

ていきました。

◆ は人生最後の大仕事になりました。彼はこのころ、がんのため

に余命宣告を受けていました。

亡くなるまでの数年間は、私が

会社を引き継ぐための準備期間となりました。女性である私が

1号店となる「雑貨株式会社」の

店構え。

◆ 本通に出店できるチャンスを探していました。銀行に声を掛けたところがきつかけです。主人は迷わず、帽子専門店『SHAPPO』の本通出店を決めました。これま

めた英会話スクールで、8歳年以上の主人と出会いました。当時

30歳、私が23歳の昭和63年に結婚しました。

◆ 結婚した前年の年に、1号店となる雑貨店「雑貨株式会社」を中区袋町に開店しました。当初

から広島で一番のぎわいがあ

る本通に出店したい気持ちがあ

ため、どうでもできませんで

した。その後は現在「うらぶくろ」と呼ばれている本通の裏通りに、古着店やメンズファッショ

ンを中心とした店などを出し

ていきました。

◆ は人生最後の大仕事になりました。彼はこのころ、がんのため

に余命宣告を受けていました。

亡くなるまでの数年間は、私が

会社を引き継ぐための準備期間となりました。女性である私が

1号店となる「雑貨株式会社」の

店構え。

◆ 本通に出店できるチャンスを探していました。銀行に声を掛けたところがきつかけです。主人は迷わず、帽子専門店『SHAPPO』の本通出店を決めました。これま

めた英会話スクールで、8歳年以上の主人と出会いました。当時

30歳、私が23歳の昭和63年に結婚しました。

◆ 結婚した前年の年に、1号店となる雑貨店「雑貨株式会社」を中区袋町に開店しました。当初

から広島で一番のぎわいがあ

る本通に出店したい気持ちがあ

ため、どうでもできませんで

した。その後は現在「うらぶくろ」と呼ばれている本通の裏通りに、古着店やメンズファッショ

ンを中心とした店などを出し

ていきました。

◆ は人生最後の大仕事になりました。彼はこのころ、がんのため

に余命宣告を受けていました。

亡くなるまでの数年間は、私が

会社を引き継ぐための準備期間となりました。女性である私が

1号店となる「雑貨株式会社」の

店構え。

◆ 本通に出店できるチャンスを探していました。銀行に声を掛けたところがきつかけです。主人は迷わず、帽子専門店『SHAPPO』の本通出店を決めました。これま

めた英会話スクールで、8歳以上の主人と出会いました。当時

30歳、私が23歳の昭和63年に結婚しました。

◆ 結婚した前年の年に、1号店となる雑貨店「雑貨株式会社」を中区袋町に開店しました。当初

から広島で一番のぎわいがあ

る本通に出店したい気持ちがあ

ため、どうでもできませんで

した。その後は現在「うらぶくろ」と呼ばれている本通の裏通りに、古着店やメンズファッショ

ンを中心とした店などを出し

ていきました。

◆ は人生最後の大仕事になりました。彼はこのころ、がんのため

に余命宣告を受けていました。

亡くなるまでの数年間は、私が

会社を引き継ぐための準備期間となりました。女性である私が

1号店となる「雑貨株式会社」の

店構え。

◆ 本通に出店できるチャンスを探していました。銀行に声を掛けたところがきつかけです。主人は迷わず、帽子専門店『SHAPPO』の本通出店を決めました。これま

めた英会話スクールで、8歳以上の主人と出会いました。当時

30歳、私が23歳の昭和63年に結婚しました。

◆ 結婚した前年の年に、1号店となる雑貨店「雑貨株式会社」を中区袋町に開店しました。当初

から広島で一番のぎわいがあ

る本通に出店したい気持ちがあ

ため、どうでもできませんで

した。その後は現在「うらぶくろ」と呼ばれている本通の裏通りに、古着店やメンズファッショ

ンを中心とした店などを出し

ていきました。

◆ は人生最後の大仕事になりました。彼はこのころ、がんのため

に余命宣告を受けていました。

亡くなるまでの数年間は、私が

会社を引き継ぐための準備期間となりました。女性である私が

1号店となる「雑貨株式会社」の

店構え。

◆ 本通に出店できるチャンスを探していました。銀行に声を掛けたところがきつかけです。主人は迷わず、帽子専門店『SHAPPO』の本通出店を決めました。これま

めた英会話スクールで、8歳以上の主人と出会いました。当時

30歳、私が23歳の昭和63年に結婚しました。

◆ 結婚した前年の年に、1号店となる雑貨店「雑貨株式会社」を中区袋町に開店しました。当初

から広島で一番のぎわいがあ

る本通に出店したい気持ちがあ

ため、どうでもできませんで

した。その後は現在「うらぶくろ」と呼ばれている本通の裏通りに、古着店やメンズファッショ

ンを中心とした店などを出し

ていきました。

◆ は人生最後の大仕事になりました。彼はこのころ、がんのため

に余命宣告を受けていました。

亡くなるまでの数年間は、私が

会社を引き継ぐための準備期間となりました。女性である私が

1号店となる「雑貨株式会社」の

店構え。

◆ 本通に出店できるチャンスを探していました。銀行に声を掛けたところがきつかけです。主人は迷わず、帽子専門店『SHAPPO』の本通出店を決めました。これま

めた英会話スクールで、8歳以上の主人と出会いました。当時

30歳、私が23歳の昭和63年に結婚しました。

◆ 結婚した前年の年に、1号店となる雑貨店「雑貨株式会社」を中区袋町に開店しました。当初

から広島で一番のぎわいがあ

る本通に出店したい気持ちがあ

ため、どうでもできませんで

した。その後は現在「うらぶくろ」と呼ばれている本通の裏通りに、古着店やメンズファッショ

ンを中心とした店などを出し

ていきました。

◆ は人生最後の大仕事になりました。彼はこのころ、がんのため

に余命宣告を受けていました。

亡くなるまでの数年間は、私が

会社を引き継ぐための準備期間となりました。女性である私が

1号店となる「雑貨株式会社」の

店構え。

◆ 本通に出店できるチャンスを探していました。銀行に声を掛けたところがきつかけです。主人は迷わず、帽子専門店『SHAPPO』の本通出店を決めました。これま

めた英会話スクールで、8歳以上の主人と出会いました。当時

30歳、私が23歳の昭和63年に結婚しました。

◆ 結婚した前年の年に、1号店となる雑貨店「雑貨株式会社」を中区袋町に開店しました。当初

から広島で一番のぎわいがあ

る本通に出店したい気持ちがあ

ため、どうでもできませんで

した。その後は現在「うらぶくろ」と呼ばれている本通の裏通りに、古着店やメンズファッショ

ンを中心とした店などを出し

ていきました。

◆ は人生最後の大仕事になりました。彼はこのころ、がんのため

「本通」は江戸時代から山陽道のメインルートとして栄えました。その歴史を紐解く特別編。

現在も本通に存在する紙屋町の名前は、伊予から移り住んだ伊予屋九郎右衛門が、紙商いをしていたことから名付けられたと言われています。江戸時代の記録によると、紙屋は6軒営業していたそうです。昭和26年より本通3丁目で営業する『高橋呉服店』は、明治5年に中島本町で創業後、紙屋町に移転。また、『キシヨウ堂』は中町で創業後、昭和11年に紙屋町へ移転し、原爆投下によって焼失するまでこのエリアで店を営んでいました。

話を聞きに行ってみよう、

旧紙屋町エリアで店を営んでいた100年を超える老舗

高橋呉服店 MAP⑩
大正12年に中島本町から紙屋町へ移転。当時は、現在『洋服の青山紙屋町店』が営業する位置にあった。



「本通寫真道場」では、本通をテーマにした皆さまの写真を募集しています。優秀作品は「ゆ」誌で掲載させていただきます。人・モノ・建物等、被写体は問いません。紙焼き・デジタルデータいずれも対応は可能です。作品の投稿は、ブレゼントの宛先または、kik4994@gmail.com「写真道場」までお寄せください。ベンネーム・タイトル・コメント・撮影データ等もお忘れなく。



本通子の取材こぼれ話

記事の裏側を
二つ紹介します

今回の「本通談」に登場してくれたのは、気象キャスターの勝丸恭子さん。テレビで見る通り、優しい笑顔の素敵な女性です。気象予報士としての責任感とプロ意識を持つて、日々様々な努力をされているのが印象的でした。例えばテレビで演するときの衣装。コーディネートは毎日自分でしているそうですが、伝える天気の情報とちぐはぐにならないように気を付けているそうです。「大雨の日は青系統の洋服を着るようになります。あと今日は冷えますと言ひながらノースリーブを着ていては説得力が無いですからね。でも、ちょっとぴりお茶目な一面も…。『テレビで傘を忘れないでください』と言つているのに、自分が傘を忘れることがあるんですよ(笑)」とは、なんだか意外ですよ!

そんな親しみやすさも魅力の勝丸さん。彼女が伝える天気情報、これからもテレビの前で楽しみに待ちたいのです♪



〈米田正一商店〉
日傘 12,960円

愛すべき 本通の **逸品**

天然素材ゆえの質感を持つ、風が通り抜ける日傘。
照りつける日差しが気に入る季節。そんなとき、日傘はいつでもどこでも優しい陰をつくってくれる。

米田正一商店の日傘は、大阪府在住の職人が手作業で生み出しているこだわりの品だ。綿100%の生地には撥水防水加工が施されていないため、風通しがよく、差していると涼しく感じられる。

丸い持ち手は女性の手がすっぽり入る大きさ。楓（かえで）材の木彫りの質感は手によく馴染み、使うほど味わいが増す。開きやすく閉じやすいように計算されてつくられた中棒も、快適な使い心地に一役買っている。

生地は洗うことができ、1

店。傘の品揃えは勿論、上質で着心地の良い洋服、雑貨もセレクト。米田さんの刀傘は、30年以上取扱いがあり、麻素材の別注品もあり。販売店 fukuma (店舗詳細は MAP (6))

働く本通人の1日。

中四国一の商店街・本通で働く人は一体どんな1日を送っているのでしょうか。
本通の賑わいを支える“本通人”的1日をご紹介します。



創業123年、広島名産を扱う老舗の店長として店に立つ長崎さん。店舗での業務はもちろんのこと、商売に役立てるための情報収集は店を営む上での重要な仕事だと話す。「昼間は商店街や周辺を歩いて回り、人の流れや他店の様子など、世の中の状況を感じることを大切にしています」。また広島青年会議所のメンバーとして、過去には広島キッズシティの運営など、広島の明るい未来のため日々取り組んでいる。「様々な業種に携わる同年代の人と話をすることで刺激にもなりますし、意見をもらえるのはとてもありがたいですね」と話す。また、新しい広島県産の商品を求めて、自ら产地へ足を運ぶことが多い。社交的でフットワークの軽い長崎さんの仕事ぶりが、老舗店に新たな風を吹き込んでいる。



プレゼント
→7p



カントリーキャット MAP 3 原田 健司さん

平成5年にオープンした雑貨店の2代目である原田さん。現在、母親、奥さんと共に店を営んでいます。店内には猫グッズをはじめ、文具や食器、バッグなど個性豊かな商品がズラリ。国内外から毎日のように届く商品には、東京の美大を卒業し、現在も予備校で美術講師を務める原田さんのセンスが光る。「最近は海外からのお客様も多く、お店のファンになってくれる方も増えています。他では出合うことのできない商品を提供したいですね」と話す。店には息子の丈司くんが顔を出すこともあり、そこにはいつも笑顔が溢れる。家族で営む店ならではの光景や、原田さん一家の醸し出す和やかな空気が、愛される店を形作っているのだ。





働く本通人 SNAP!

本通で働く人たちの普段の一日から、とある

シーンをキャッチ。一人一人の仕事への想いが本通という商店街を形作っています。



Present

下のハガキを切り取って住所、氏名、年齢、職業、電話番号、希望賞品名、本誌へのご意見・ご感想
(特集してほしい内容など)を明記の上、ご応募ください。締切は6月30日(木)当日消印有効です。
当選者には引換券を郵送いたしますので、各店舗にてプレゼントとお引き換えください。



A『GOODS COMPANY LAND』
より、オリジナルハンドタオルを
5名様に。



『えたら』より、
3Dフィギュア作成券を1名様に。
※来店時に撮影後、完成まで
1週間いただきます。



c

『カントリーキャット』より、
オリジナルエコバッグを3名様に。



E『長崎屋』より、
広島はっさくサイダー
6本セットを4名様に。



F『Merci Hiroshima』より、
3連ブレスレットを4名様に。

本通マガジン
Φ(ウ) Vol.69

平成28年5月28日発行
(年3回発行)

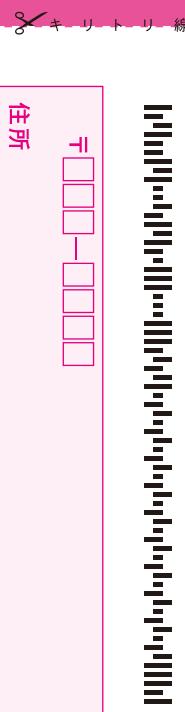
発行/広島本通商店街振興組合
広島市中区本通8-18
TEL 082-248-1518

本誌からの無断複製・転載は、
固くお断りいたします

本通商店街PCサイト
www.hondori.or.jp

Twitterもやってます!
[@hondori](https://twitter.com/hondori)

D『Speak Low』より、
オリジナルレコードバッグを1名様に。



第1希望

※お送りいただいた個人情報は、プレゼントの当選発表、誌面づけの参考以外には使用いたしません。

●プレゼント賞品のご希望アルファベットをお書きください。

第2希望

Hon-dori Happy News

本通で買い物をして応募! カープのペア入場券を当てよう



毎年恒例となっている「球場を赤く染めようキャンペーン!」が今年も好評開催中だ。本通商店街加盟店で買い物をしたレシート(税込1,000円以上)を、店頭に設置してある応募はがきに貼って応募すると、9月まで毎月10組20名様にカープパフォーマンスB席のペアチケットが当たる! そのほか、ダブルチャンスとして、お馴染みのロゴをあしらったトートバッグを毎月10名様にプレゼント。本通商店街加盟店は本誌に付いている本通マップを参考にしよう。今年も熱戦を繰り広げている広島東洋カープ。本通で買い物を楽しんで、マツダスタジアムへ応援に出かけよう!

問■広島本通商店街振興組合 TEL 082-248-1518

キラリ★ 本通を歩く素敵な人、見つけた!
街びとSNAP



藤原亮さん(31歳)

瑞穂さん(28歳)

今回登場してくれたのは結婚3年目という藤原さんご夫妻。本通でお買い物中のところをキャッチしました。瑞穂さんは、1歳の子どもと一緒に『タリーズコーヒー広島本通店』のキッズルームをよく利用しているそうです。これからも家族みんなで本通を楽しんでくださいね♪

プレゼント
←ハガキ

ご応募はお一人につき1通のみ有効です。
※2通以上のご応募は無効とさせていただきます

郵便はがき
ヤリートリ 線
730-8790
926

広島市中区本通8-18
『Φ』 vol.69 紙

料金受取払郵便
8006
広島中央局認承
15日まで

切手不要

住所

〒□□□-□□□

姓
氏名

フリガナ

年
齢

職
業

性
別

①男
②女

①未婚
②既婚

ペ
ネ
ーム

TEL

※お送りいただいた個人情報は、プレゼントの当選発表、誌面づけの参考以外には使用いたしません。

第1希望

第2希望